

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 広島県立呉三津田高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 737-0814

広島県呉市山手1丁目5番1号

E-mail [kuremitsuta-h@hiroshima-c.ed.jp](mailto:kuremitsuta-h@hiroshima-c.ed.jp)

Website [www.kuremitsuta-h.hiroshima-c.ed.jp](http://www.kuremitsuta-h.hiroshima-c.ed.jp)

児童生徒数 男子 273 名 女子 322 名 合計 595 名

児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は「呉から世界へ 世界から呉へ グローバル社会のリーダーにして、地域創生のために、課題を発見し、協働で答えを作り出すことのできる人材の育成。」をミッションとし、ESD をミッション達成のため生徒に身につけさせる「21 世紀型能力」の育成・実践の場と捉え、ESD の実践を通して「思考力」「実践力」「論理的・批判的思考力」「レジリエンス」「人間関係形成力」「メタ認知力」「グローバル社会参画力」を育成することを目標とした。主に総合的な学習の時間を柱に①現代社会における、正解が一つに限定されない課題について、粘り強く他者と協働して取り組み、知識や技能を進化統合する探究的学習活動②自己を見つめ、社会の中の一員として自己の在り方・生き方を考える学習活動③多様性を受容し、意見の異なる他者と合意形成を図る学習活動④教科学習との還流性を図ることによって、「悦ばしき知」を実感するとともに、さらなる学びや探究への意欲を喚起する学習活動、を軸とし、1 年生では「主体的な自己」、2 年生では「自己の相対化」、3 年生では「自己実現」をテーマに活動を展開した。

### ① 1年 主体的な自己

1学年では「主体的な自己 ～私の興味関心を知る～」をテーマとし、今年度から新たに QFT を各単元の冒頭に取り入れ、生徒の深い学び（主体的・能動的な学び）や、メタ認知力・グローバル社会参画力といった資質・能力を高めることをねらいとし、切り抜き新聞、読書会、ディベートに取り組んだ。

### ② 2年 自己の相対化

2学年では「自己の相対化 ～私を育んだ社会を知る～」をテーマとし、社会探究プロジェクト学習に取り組んだ。パフォーマンス課題を「40歳になった時、呉にどのように貢献するか」とし、医療、経済、教育、環境等を切り口に未来のコミュニティーの一員として伝統と発展の融合を考えながら課題発見・解決を探究した。

### ③ 3年 自己実現

3学年では「自己実現 ～社会の一員として私はどう生きるか～」をテーマとし、パネルディスカッションに取り組んだ。呉の課題についてその背景や解決策を多様な視点から探究し、意見を構築する過程を通して、論理的・批判的思考力、判断力、グローバル参画力を養った。



1年 切り抜き新聞展示



1年 ディベート



2年 社会探究プロジェクト



3年 パネルディスカッション

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校においてはユネスコスクールとしての活動を主に総合的な学習の時間において位置付け実践している。各教科等で行われる基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習活動等を前提とし、そこで身に付けた知識・技能や思考力を教科横断的に発揮させ、21世紀を生き抜く力へとつなげていく場として展開している。年間評価計画を基点とし、その評価基準を質的ルーブリックとして策定したり、各種アンケート・質問紙等のデータをもとに、生徒の到達度や意識を把握したりし、指導内容・指導方法の改善を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校経営計画において活動を位置付けるとともに、本校の目指す生徒増を明記し、そのような生徒が身に付けているべき資質・能力を定義することにより、各活動において身に付けさせる資質・能力とその到達度に関し全教員が共通認識のもとに活動を行なっている。さらに、各教科・各分掌・各学年をまたがる校内体制を組織し、またカリキュラムマネジメントの実現やカリキュラムマップの作成を通し、組織的かつ継続的に取り組む体制作りを行なっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校におけるあらゆる活動はユネスコスクールの活動を含め全て担当による自己評価及び学校評議員・学校関係者評価委員により外部評価が年に2回（中間評価・年度末評価）なされており、活動を主観的かつ客観的に評価を行うことでその質の向上を図っている。活動に対して生徒は概ね自主的に取り組み、一定の成果が見られるが、カリキュラム構成や各教科との有機的関連性においては改善の余地がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

1 年生においては公開ディベート, 2 年生では社会探究プロジェクト学習におけるポスターセッションや市議会議員との意見交換会, 3 年生におけるパネルディスカッションなど, 各活動において地域社会や他校に広く案内・公開し, また各活動を HP やニューズレターで発信している。活動の公開や情報発信を行うことにより, 外部の客観的な評価を得られるとともに, 活動を行う生徒においては自己肯定感の向上を感じることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

関西学院大学との協働により 2 学年における社会探究プロジェクトを展開したり, 広島大学, 広島国際大学との連携により講演会や活動における事前学習会を実施したりした。また各活動において卒業生や地元地域の有識者を講師や評価者として招くなど, 外部とのネットワークを構築した。ESD 活動支援センターや ESD コンソーシアムの実施する講演会に教員が参加した。今後更なる交流やネットワークの構築を図る。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内の小・中・高等学校・大学, 及び国外の姉妹校と積極的に交流を図りネットワーク形成に取り組んでいるものの, ユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成においては課題が残る。今後, 他のユネスコスクールとの情報共有や協働を図っていきたい

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

各活動で身に付けたい資質・能力を事前にルーブリックで生徒に示すことにより、より主体的に活動に取り組む姿勢が見られた。また活動の成果を公開する場を多々設けることで、社会参画意識の形成が図られたとともに、社会の一員として具体的・現実的に当事者意識をもち主体的に探究し行動に繋げる姿勢が作られた。更には行政が提案の実現に向けて本校を訪れるなど、生徒の活動が社会に一石を投じた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールの活動で培われる汎用的資質・能力、すなわち 21 世紀型能力と各教科等で育成する資質・能力との関連性を整理し、それらを有機的に結びつけることで学校活動全体における ESD の実践を図る。また各学年ごとに展開される活動間の有機的つながりを明確にすることで、長期的スパンに立ちより主体的に活動に取り組めるよう意識形成を行う。具体的な活動内容としては平成 29 年度の各学年における活動を踏まえつつ、各活動における課題においては改善を加え展開していくものとする。今後においてはより一層、社会に開かれた教育課程につながるよう、学びに真正性を与え生徒が学びと社会とのつながりを意識し、探究に向かう態度の育成を図る。